



放課後は 別の顔



after

味線を「かっこいい」とは思っていました。同年代でしている人がいなかったこともあり、始めるきっかけがありませんでした。実際に習い始めてからは、単に弾くだけではなく正座やお辞儀の仕方など様々な作法も学ぶ必要があ

鹿屋農業高校
もりもと ゆうや
森本 悠也 さん(1年生)

4歳から水泳をしており、同校水泳部所属で50・100m自由形の選手。パソコン操作が得意で、文化祭ではクラス発表で行った動画制作の編集を担当した。



り、初めの頃は楽器を持つことも許されませんでした。また、三味線はその日の湿度に応じて皮の張り具合が変わったり、奏者も一日弾かないだけで感覚が狂ったりしてしまいます。とても難しい楽器ですが、これからも練習を続けて、いずれは「鹿屋市文化祭」のような大きな舞台上で演奏できるように弾き手を目指したいです。

叔

父が三味線の先生をしてきたこともあり、幼い頃から様々な民謡に触れて育って来ました。中学生の時から正式に三味線を習い始めたのは、友人に誘われたことがきっかけ。それまで三



school

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ！



タイム トラベル ～温故写新～

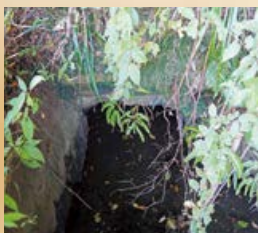
20話

中新田の用水路



吾平町の東・中・西新田にはそれぞれ三つの大きな用水路があります。中新田は明暦元年（1655年）、東・西新田は寛文年間（1661～72年）に造られたもので、この用水路の開設によって吾平町の水田面積は劇的に増加しました。

中新田には、岩盤やシラスのトンネルが数多くありますが、固い岩石を崩し掘り進めることは容易なことではありません。この岩盤崩しの公役は「一升公役」と言われ、一升のますいっぴいの岩石が取れる頃には一日が終わってしまうほど、難関中の難関工事であったと言われています。



▲現在も活用されている用水路。山を削って作られたものも多く、重機がなかった当時は過酷な作業であったことが伺えます

また、この用水路開設は突貫工事だったこともあり、働きに来ていた高限の人夫がシラスの下敷きとなる惨事も発生。これは難工事に対し、責任感の強かった役人が休憩時間にも作業を継続させていたところ突然シラスが崩れ落ち、水汲みに出ていた1人を除き全員が死亡した大事故でした。その後、遺族は役人を長い間呪ったと伝えられています。

大規模な工事には多くの苦勞や犠牲がつきまとうものですが、その役人は別段悪意がなくてやったわけではなく、使命感からこのような悲劇を引き起こしてしまいました。役人は亡くなられた高限の人たちを追悼するため、毎年惨事の日には供養を行っていたそうです。

こうした先人たちの努力で吾平町の水田は築られました。この美しい農地は今後も次代に受け継がれていくでしょう。